

府立医大眼科の仲間たち



ある日の教室メンバーです。この日は、午後6時だというのに外来中で撮影に参加できない先生もありました。写真の中には、教授をはじめとして、スタッフ、専攻医、大学院生、研究生、視能訓練師、秘書が含まれていますが、みんな眼科の診療を支えてくれている人たちです。一人一人が、一人でも多くの患者様に喜んでいただけるよう、日夜、臨床に研究に奮闘努力しています。今後ともご支援の程どうぞよろしくお願い申し上げます。(横井則彦)

ベルツ賞受賞にあたって

ベルツ賞は、日本の近代医学の発展に大きな功績を残したドイツ人医師エルウィン・フォン・ベルツ博士にちなみ、医学研究における日独国際間の協力を推進するために1964年にドイツの製薬会社ベーリンガーインゲルハイム社によって設立されました。毎年異なる医学領域で学術論文が募集されますが、第43回の昨年は「感覚器の医学 -基礎と臨床-」がテーマとなりました。過去を受賞論文はいずれも高いレベルのものばかりですが、木下教授以下10名でまとめた論文「再生医学による重症角膜疾患の新規治療法への戦略

的研究」(木下茂、外園千恵、稲富勉、中村隆宏、小泉範子、川崎諭、上田真由美、横井則彦、上野盛夫、笹井芳樹)が思いもかけず1等賞に選ばれました。論文は、重症の眼表面疾患の治療を目的として、教室でこれまでに基礎および臨床の両面から取り組んできた研究の成果をまとめたもので、培養粘膜上皮シート移植に関する研究が主な内容となっています。最新医学1月号に掲載していただき眼科のみならず様々な分野の方に研究を知っていただける結果となり、一同大変嬉しく思っております。(外園千恵)

KPUM&Friedrich-Alexander-University Erlangen-Nurnberg University Collaborating Conference

第1回 KPUM&Friedrich-Alexander-University Erlangen-Nurnberg University Collaborating Conferenceが去る平成18年9月13日より2日間、ドイツErlangenで開催されました下記に示します。両大学からの14名の演者が発表し、それに対して内容の濃い討論が行われました。さらにErlangen大学のKruse教授は我々を大学内はもちろんのこと副学長とのmeetingやErlangen cityの歴史を学べるcity tourを企画し

て下さりまして、全ての時間が有意義なものでした。最終日には海外らしくKruse教授が我々を自宅でのdinnerに招待して下さい、そこでも臨床や研究などに関する率直な意見交換がされ、非常に充実したものとなりました。今後もErlangen大学とは年に2回ほどISDN回線を使用したビデオカンファレンスなどを行い、大学の枠組みにとらわれない臨床・研究概念、視野を拡大していく所存です。(丸山和一)

Name	Presentation title
Kinoshita S.	Corneal Basic Science for Clinical Application
Inatomi T.	Clinical Science of Ocular Surface
Koizumi N.	Transplantation of Cultivated Corneal Endothelial Sheet in Primate
Ueta M.	IkappaBzeta KO mice as a model of Stevens-Johnson syndrome
Hamuro J.	The Redox in the Eye
Maruyama K.	Reduced Macrophage Number and Activation Lead to Impaired Diabetic Wound Healing
Schlötzer-Schrehardt U.	New Aspect and Research Activities in Pseudoexfoliation Syndrome
Kremers J.	New Animal Model of Glaucoma
Kruse F.E.	Stem Cell Research in Ophthalmology
Cursiefen C.	Corneal Angiogenesis and Lymphangiogenesis and their role for corneal transplant immunology
Dietrich T.	Integrins in Lymphangiogenesis
Pollhammer M.	New Method of Secondary Cataract Prevention
Jacobi C.	Chronic Inflammation and Hepatitis C in Dry Eye Syndrome
Bachmann B.	Use of Nerve Growth Factors



第18回 眼瞼・義眼床手術研究会が開催されました

■特別講演 富士森 良輔(富士森形成外科) ■教育講演 横井 則彦(京都府医大 眼科)



平成19年2月24日(土)京都国際会議場において、京都府立医科大学眼科学教室が主催となり、第18回 眼瞼・義眼床研究会が開催されました。眼瞼、眼窩、涙器疾患、無眼球症、顔面再建などは、眼科、形成外科、脳神経外科、耳鼻咽喉科などの境界領域であり、満足できる医療を患者さんに提供するためには、各科医師が垣根を取り払って、徹底的に議論をすることが重要です。この会は、主に形成外科医、眼科医が、同時に集まり自由に意見を述べ議論する貴重な機会であり、今回も例年以上に非常に活発な意見が飛び交う意義のある研究会になりました。特別講演、教育講演は、それぞれ、義眼床手術の歴史、眼表面と眼瞼の密なる関係について、スペシャリストの先生にわかりやすく講演していただき、また懇親会にも、多くの先生方に参加により盛況に終わることができました。(荒木美治)